

### 第 3 章 APRICOT 京都会議

## 第3章 APRICOT 京都会議

APRICOT はアジア太平洋地区におけるネットワーク運用技術者を主たる参加者とする国際会議で、今回は2005年2月18日から2月25日まで、京都国際会館で開かれた。40か国から800人を超える参加者があった。ネットワーク運用技術を主なテーマとしているため、ドメイン名をテーマとして直接的に扱うセッションは通常それほど多くは無いが、ネットワーク運用とドメイン名の両方に通じた技術者も少なくないため、ドメイン名に関連する会合も併設されることは珍しくない。今回の京都会合では、ドメイン名に関連する会合として APTLD(アジア太平洋トップレベルドメイン連合)とインターネットガバナンスに関するパネルディスカッションの二つがあった。

### 3.1. APTLD

APTLD 会合は2月20日から22日まで開かれた。会合は基本的に会員限定で部外者の傍聴は想定されていなかったため、内容はウェブサイト(<http://www.aptdld.org>)で公開されている議事録案と関係者からの聞取によって知る他ない。それらを総合すると、主な関心事項はIANA機能、ICANN戦略計画(ICANN Strategic Plan)、それにWSIS/WGIGであったものと思われる。

IANA機能はccTLD関係者にとっては、ICANNとの関係を考える上で常に大きな重みを持つ問題である。ICANN戦略計画は、ICANN Cape Town 会合以来大きな話題になっており、APTLDはAPRICOT京都会合での議論を経て、これに関する声明を発表した。WSIS/WGIGに関しては、これまでAPTLDは特に活動を行っていなかったが、今後は積極的に意見を表明していく事に決定した。

### 3.2. インターネットガバナンスに関するパネルディスカッション

この会合は国連開発計画アジア情報開発プログラム(UNDP-APDIP)の呼び掛けで、インターネットガバナンス・タスクフォース(IGTF)とAPNICが協力して行ったもので、2005年2月22日16:00から京都国際会館のB1会議室で行われた。パネリストは会津泉(IGTF)、Geoff Huoston(APNIC)、Gaurab Raj Upadhaya、Chun Eung Hwi、丸山直昌(JPNIC、IGTF)、James Seng、Dieter Zinnbauer(UNDP-APDIP)で、会津泉が司会を務め、聴衆は50人程度であった。事前の予告期間が短かった割には、参加者数は多かったと言えるであろう。

内容に関して事前に特に打ち合わせをせず、自由に見解を表明するという形で進められた。時節柄、WGIGでの議論の動向にもかなり言及されたが、基本的には現在のICANNを中心とするドメイン名、IPアドレス管理を肯定する意見が支配的であった。参加者の殆どがインターネットの技術者或はICANN会合への参加経験豊富な人々であったので、このような雰囲気になったことは当然であったとも言える。

このパネルディスカッションの後、何人かのAPRICOT参加者と話した限りでは、多くの人々が現状のWSIS/WGIGの議論がICANNの現在の役割を大きく変えることにはならないと考えていた。技術的実績に裏打ちされていない人々の議論のこの件への影響力は大きくない、というのがその理由であると思われる。

第2部 第3章 APRICOT 京都会議